

教化センターだより

No. 407

発行日 2021年5月1日
発行 真宗大谷派大阪教区
教化センター
TEL 06-6251-0745
FAX 06-4708-3278

◆ 大阪教区教化センター発行物の紹介 ◆

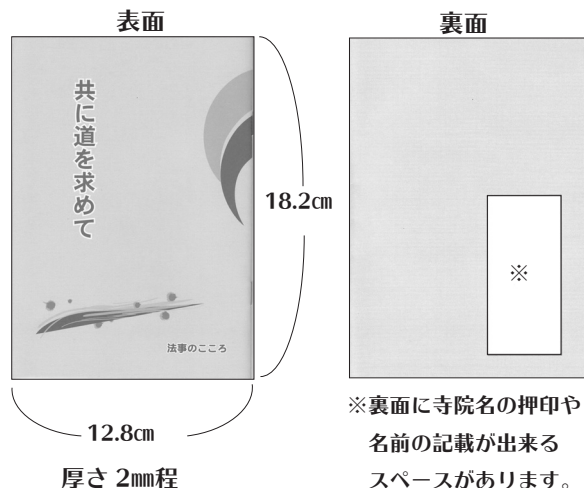
『共に道を求めて —法事のころ—』

《あずき色の装丁・B6判・43頁》

< 収録内容 >

- ▶三帰依文▶真宗宗歌(1番)▶正信偈(草四句目下)
- ▶念仏・和讃(「弥陀成仏のこのかたは」次第六首)
・回向(同朋奉讃)
- ▶恩徳讃▶御文(五帖目第一通)
- ▶和讃(「十方微塵世界の」「南無阿弥陀仏をとなふれば」
の各次第六種)
- ▶法事のころ(法事の意義、法事の心得、お内仏のお給仕)
- ▶勤行について(合掌礼拝の仕方、焼香の仕方)
- ▶浄土真宗の教え(真宗の救い)

頒布価格 1部 50円(送料別)



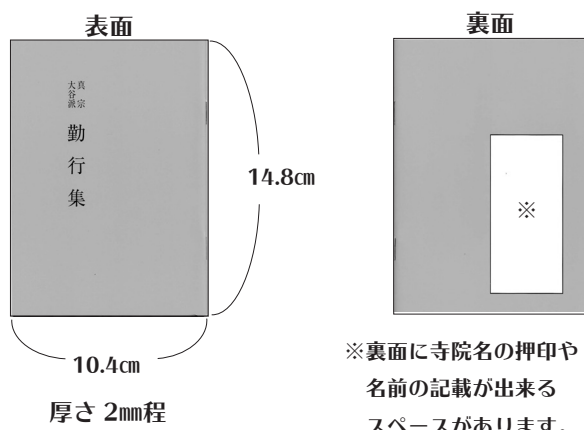
『真宗大谷派 勤行集』

《黄色の装丁・A6判・36頁》

< 収録内容 >

- ▶三帰依文▶真宗宗歌(1番)
- ▶正信偈(草四句目下)
- ▶念仏・和讃(「弥陀成仏のこのかたは」次第六首)
・回向(三洵)
- ▶念仏・和讃(「弥陀成仏のこのかたは」次第六首)
・回向(同朋奉讃)
- ▶恩徳讃▶御文(五帖目第一通)

頒布価格 1部 50円(送料別)



(敬称略)

『二匹のカワウン』
④ 仏典マンガ・仏さまのおしえ

『お墓参りに行けず
不安で…』

③ リーフレット
『もしもし相談』……高島光陽

② リーフレット
『善導独明仏正意』……新田修巳

① リーフレット
『掲示板のじよは』……田中寛子
『ただ念仏のみぞ
まことごとおわします』

— 6月のリーフレット —

— 教化リーフレットの
活用について —
4枚の「教化リーフレット」
は、各寺院・教会において「寺報」
や個別に複写しての配布、同朋
会や聞法会での教材としての活
用いただければ幸いです。

ただ

念仏のみぞ

まことにて

おわします

『たん歎に異し抄ょう』

「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」と『歎異抄』に書かれています。

「みんな言ってるよ」と私が言うと「みんなって誰なん？」と返してくる友人がいます。正当性を主張したくて言ったものの、そう言われると、みんなといっても、身近な少しの人だったり、ネットで見聞きした不確実な多数であることが、ふと思い返されます。そんな世間のいう価値基準を意識的にしろ、無意識にしろ、気にしながら生きています。しかし、それぞれの場合が、知らず知らずのうちに混じるの

が、人間です。私たちの決める善い悪いは、確かなものではないといわれているのでしよう。

標記のお言葉は、思い込みを手放す道筋を、私たちに教えてくれているように思います。たとえば、大切な人を偲び、手が合わさる時、その存在をととも近くに感じることうがあります。いのちを感じ、心に灯がともる時、私の闇を照らし出し、本当に大切なことを思い出させてくれるのでしよう。人生やこの社会を生きるうえで、違った視点をもらえるあたたかい言葉だと思うのです。自他ともに課せられる、たくさんさんの「こうあるべき」に一歩立ち止まらせてくれます。

(田中 寛子)

善導独明仏正意

善導独り、仏の正意を明かせり。

釈尊の晩年の頃、ガンジス河からほど遠くないところにマガダという国がありました。この国の首都が王舎城です。そこである日大変な事件がおこりました。阿闍世太子が父王を幽閉したのです。その時苦悩する母親（韋提希）に対して、釈尊が『仏説観無量寿経』を説かれたのです。

このように、この経は、もともと阿弥陀仏と浄土の観想（心を集中し仏や浄土の様相を想起したもの）を

具体的に説く経典として、また禅定を修し三昧の発得を求め人々の要求にこたえることのできる経典として、当時の中国の仏教界ではとても幅広く読まれておりましたので、それについての研究もされていきました。それ故、善導大師以外にも、いくつもの『観経』の註釈がされていきました。

しかし、善導大師は、これらの諸師たちの『観経』の註釈には、仏の正意が明瞭にされていないと厳しく批判しました。そして、善導大師自ら『観経疏』四卷（玄義分・序分義・定善義・散善義）を著し、これまで

の諸師たちの註釈の誤りを具体的に指摘されたのです。善導大師は、『観経疏』の中で、いくつかの問題点をあげています。まず最初に次のような指摘をされています。

いずれの諸師も、韋提希は經典ではあたかも凡夫であるかの如く描かれているが凡夫を教化するためにわざと凡夫の姿をとらただけのことで、本来の姿は「大権の聖者」であると見ておられます。これに対し善導大師は、韋提希を真正正銘の紛れもない「実業の凡夫」であると見ておられます。

（新田 修巳）

もともと『仏説観無量寿経』は、煩惱に苦しみ悩む韋提希のために説かれた經典です。それ故あ

くまでも「観想の念仏」ではなく、「無量寿仏の名を持つ」との仰せのまに、聖者の装いを脱ぎ捨て煩惱具足の凡夫と信知して本願力に乗ずる「称名の念仏」の道だけが、凡夫に開かれた唯一の仏道であることを明示されたのです。そしてこのことこそが、まさに仏の正意であることを明らかにされた善導大師の教導を万感胸に迫り、親鸞聖人は「善導独り、仏の正意を明かせり」と讃じておられるのです。

今月のことば出典『正信偈』

『真宗聖典』

207頁

『真宗大谷派 勤行集』（赤本）

26頁

もしもし相談



お墓参りに行けず
不安で…

問

最近めつきり足腰が弱り、お墓にお参りが出来なくなりました。

亡くなった主人が寂しがないか不安ですし、ご先祖にも悪いような気がして悩んでいます。

お墓にお参り出来ないときはどうしたらいいでしょうか。
(82歳・女性)

答

「人間は死んだらおしまいだ」ということを言う人もありますが、本当にそうでしょうか。

人間の精神的ないのち(それは魂ともよばれます)は、決して死んで終わっ

てしまうようなものではなく、そのいのちは家族や友人の心の中で生き続けるものだと思われ、受け止められている人々がたくさんおられます。また、亡くなった人の魂(いのち)は永遠に今生きている人の心の中にあって、今現にはたらいてくださっている事実を目覚める人々がたくさんおられます。そのはたらきが「夫が寂しい想いをしているのではないか」、また「ご先祖さまに悪い、申し訳ない」と思う心に表れてくださっているのではないのでしょうか。

「いたむ」という言葉は、人の死を嘆き悲しむ、心が痛むという言葉ですが、同時に「いたましむ」という言葉があるように、死者を通して「いたましめられる」と、心に強く悲しみを感じさせられているという意味でもあります。つまり感じさせられているという事は、私の悲しいと感じる心は、向こうからの働きがあって、自分の上に悲しい、いたましいと感じる心が起こるということになります。

さらに、「いたむ」感情は個人の内にとどまるものではなくて「いたましい」「いたわしい」という感情へ広がっていくものであります。相手のことを思いやる「いたわる」という感情は、人と共に「いたみ」「悲しむ」という深い他者との関係性を開いていくものです。死者の「いたみ」を通してしか死者はその存在をこちら側に現すことはできないという事実を示しているのではないのでしょうか。「いたみにおいて死者が現れる」という「悼む」という営みは、そのまま「むらう」という営みにつながっていくわけです。

すでに亡くなられた方や先祖のお墓参りができなくても、忘れようとしても忘れられない想いの内に、亡き夫もご先祖も、いつでもどこでも、今も現に私の心の中で生きて働いてくださっている事に気づかせていただけば何の不安も心配もないのではないのでしょうか。

(高島 洗陽)



仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ〈191〉



参考：『十誦律』27ほか参照

『十誦律』は、説一切有部が伝えた律蔵です。律蔵とは仏教教団の規則と解説をおさめたものです。全体が十章（十誦）にわけられているので十誦律といいます。後秦（384年 - 417年）の弗若多羅・鳩摩羅什による共訳で、61巻からなっています。